

第46回 支店長のわがまち紹介

栃木県宇都宮市

「交通未来都市うつつのみや」の実現を目指して

宇都宮市の中心部 (写真提供 宇都宮市)



筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長がゆかりのある市町村をご紹介させていただくコーナーです。第46回は栃木県宇都宮市です。宇都宮支店長が宇都宮市長 佐藤栄一氏にお話を伺いました。

●宇都宮市が一番と考えていること、自慢できることはどのようなことでしょうか。

【暮らしやすく、子育てしやすいまち】

宇都宮市は明治29年に市制施行し、北関東最大の50万都市として、豊かな自然に恵まれた商業・工業・農業が盛んな県都として発展してきました。

最近の民間調査では、暮らしやすく、子育てしやすいまちとして評価されています。

- ・「住みよさ度」 4年連続第1位 (※1)
- ・「共働き子育てしやすい街」 第3位 (※2)
- ・「財政健全度」 第3位 (※3)

本市には、餃子をはじめ、ジャズ、カクテル、大谷石など魅力ある観光資源があります。また、本市を拠点にしたプロスポーツチームとして、バスケットボールの「リンク栃木ブレックス」、サッカーの「栃木SC」、自転車の「宇都宮ブリッツェン」があります。

本市で開催される大きなイベントとしては、3人制のバスケットボールの国際大会「FIBA3×3ワールドツアーうつつのみやマスターズ」が本年7月に、アジア最高位の自転車ロードレース「ジャパンカップ」が本年10月に予定されており、様々なスポーツを観戦できる環境が整っています。



平成28年7月30～31日に開催したFIBA 3×3ワールドツアーうつつのみやマスターズ (提供: 宇都宮市)

文化面でも、宇都宮城5代城主の宇都宮頼綱が「百人一首」の生みの親と言われていることから、百人一首ゆかりの地として競技かるたの全国大会を開催しており、本年11月にも予定されているところです。



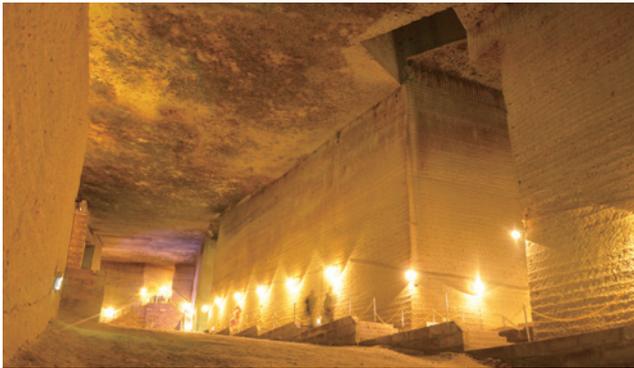
平成28年10月22～23日に開催した第25回ジャパンカップサイクルロードレース (提供: 宇都宮市)

※1 50万人以上の都市 出展: 東洋経済新報社「都市データバック2016年版」
※2 出展: 「自治体の子育て支援に関する調査」(日系DUAL×日本経済新聞社)を基に、人口50万人以上の都市を抽出
※3 50万人以上の都市 出展: 東洋経済新報社「都市データバック2016年版」

【大谷地域の観光振興】

本市の北西部にある大谷地域は、大谷石の産地として、また独特な奇岩群の自然景観や採掘により生み出された岩山、日本最古の石仏である「大谷観音」、大谷資料館などがある観光拠点となっています。

最近では、採石場跡地を活用したイベントや地底湖ツアーが話題となるなど、観光客数も平成26年度の38万9,000人から平成27年度の約48万8,000人と約9万9,000人増加しています。



大谷の地下空間（提供：宇都宮市）

そのような中、本市では宇都宮を代表する歴史文化資源として「大谷石」を中核とした歴史文化を語るストーリーについて、文化庁が進める「日本遺産」の認定を目指しています。

このように、本市は観光・スポーツ・歴史文化など様々な観光資源や地域資源を有する素晴らしいまちです。多くの方々においでいただき、本市の魅力を感じていただきたいと思えます。

●今後の展望についてお聞かせください。

【交通未来都市の実現を目指して】

今後、本格化する少子・超高齢化、人口減少社会においても、宇都宮市が、50年先100年先の未来まで持続的に発展し続けることができるよう、人口の自然増や社会増の促進に向けて、市民の結婚・出産・子育ての希望の実現と東京圏からの流入人口の増加などに取り組んでいます。

また、市民の日常生活の要素である「住まう」、「働く・学ぶ」、「憩う」といった機能をコンパクトなエリアに集約する「拠点化の推進」と、それぞれの拠点をLRT（次世代型路面電車システム）をはじめ、鉄道・バス・地域内交通・自転車などの多様な交通手段で結ぶ「ネットワーク化の促進」に取り組んでおり、そのネットワークの軸となるLRTについては、着工に向けた取り組みを進めているところです。



佐藤市長



支店長

これらの取り組みにより、過度に車に依存することなく、子どもから高齢者、障がい者など、誰もが安全で快適に移動できることはもとより、外出することによって健康が増進され、人や企業、コミュニティなどの活動や交流が活性化するなど、市民生活に様々な効果を発揮していきたいと考えています。

そして、これからのまちづくりのモデルとなる「交通未来都市うつのみや」の実現を図り、多くの人や企業から選ばれるまちを目指してまいります。



交通未来都市のイメージイラスト
(車両はストラスブール（仏）の写真）（提供：宇都宮市）

●筑波銀行に期待することをお聞かせください。

本市は、持続的な発展が可能な都市の実現に向け、地方創生の観点から様々な施策・事業に取り組んでいく必要があります。

筑波銀行は、企業や団体、人との関わりを通して地域に根付き、様々な分野の知識やノウハウ、資金、情報などを蓄積していると思えます。

これまで培ったノウハウや情報等に基づき、本市内においても、ネットワークを活かしたコンサルティング能力を幅広い分野で発揮されることにより、本市の施策・事業に関わり、まちづくりに貢献していただけることを期待しています。